



砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

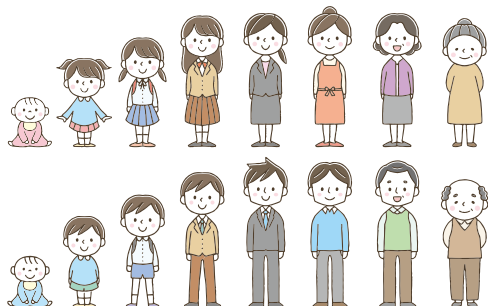
市立砺波総合病院 ☎32-3320

もしものための話し合い 「もしバナゲーム」をどう存じますか？

緩和ケア科 部長 野崎 善成
看護部 主任 前田真裕美

人生の最期にどう在りたいか。だれもが大切なことだとわかっていても、なんとなく「縁起でもないから」という理由で、避けてはいないでしょうか。

「もしバナゲーム」のカードを使えば、そんな難しい話題を考えたり、話し合ったりすること



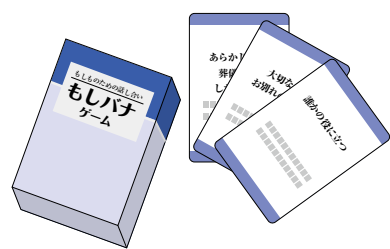
とができます。また、ゲームを通して、あなたにとって何が重要なのか、そして、なぜそれが重要なのかを考え、友人や家族にあなたの願いを伝え、理解してもらうきっかけ作りにもなります。周囲の人々とゲームをしておくだけで、いざというときの判断がしやすくなるのです。

もしバナゲームは何人でもできます。1セットには36枚のカードが入っています。そのうち35枚には重い病気の時や死の間際に大事なこととして人がよく口に^{くち}する言葉が書いてあります。カードすべてに目を通した上で「私にとって、とても重要なカードを選び、それを選んだ理由を家族や友人に説明し、話

し合っています。

「もしバナゲーム」の重要な点はいざという時のことを身近な人と、「話し合う」点にあります。このような話し合いのプロセスは医療の現場ではアドバンス・ケア・プランニング（ACP）とよばれます。昨年、厚生労働省により「人生会議」の愛称がつけられ、すでにご存じの方も多いかも知れません。家族や友人といった身近な人に加え、医療従事者が話し合いに加わり、記録されることにより実際の医療にその人の意向が反映されるようになります。

「人生会議」のとりかかりとして「もしバナゲーム」をされてみてはいかがでしょうか。



人とのつながりがある

私はこのカードを選びました。その理由は…